

# 資料

## 資料1. 実施概要

**名称**：防災・安全・復興に関する国際シンポジウム  
**日程**：2009年10月16日(金)、17日(土)、18日(日) 3日間  
**会場**：新潟県長岡市(ホテルニューオータニ長岡、ハイブ長岡、長岡技術科学大学)  
**主催**：(社)中越防災安全推進機構、日本災害復興学会  
**共催**：新潟大学災害復興科学センター  
**特別協力**：新潟日报社  
**協賛**：新潟県道路整備協会、新潟県河川協会、新潟県治水砂防協会  
**後援**：国土交通省北陸地方整備局、新潟県、長岡市、三条市、柏崎市、小千谷市、見附市、川口町、刈羽村  
 気象庁  
 (社)土木学会、(社)地盤工学会、(社)日本地震学会、(社)日本雪氷学会、(社)砂防学会、(社)日本地すべり学会、(社)地理情報システム学会、水文・水資源学会、日本自然災害学会、地域安全学会、日本災害情報学会、中越復興市民会議、NPO 法人中越防災フロンティア、中越市民防災安全士会  
 朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞社新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21

### 日程

日時	会場/内容	
<b>1日目</b> 10月16日(金)	ホテルニューオータニ長岡 NCホール	
12:00~13:00	受付	
13:00~13:10	開会 ●主催者挨拶 ●共催者挨拶 ●来賓挨拶	
13:10~17:30	●基調講演 ●パネルディスカッション1 ●パネルディスカッション2 ●閉会挨拶	
18:00~19:30	バンケット	
<b>2日目</b> 10月17日(土)	ハイブ長岡2F 特別会議室	長岡技術科学大学
9:30~17:00	●開会挨拶 ●基調講演1、2 ●セッション1~3 ●閉会挨拶	<同時開催:9:30~13:00> ●日本災害復興学会全国大会
13:00~19:30		●第2回震災被災地市民サミット (分科会1~6、円卓会議、交流会)
<b>3日目</b> 10月18日(日) 9:00~15:00	エクスカーション(コースA) 中越地震被災地	エクスカーション(コースB) 中越沖地震被災地

※ シンポジウムへの参加は無料、交流会およびエクスカーションへの参加は有料  
 ※ 各会場間の移動にシャトルバスを運行  
 ※ 建設系CPD 協議会の相互承認プログラムとして認証

## 資料2. 主催・共催団体

### ■主催

#### 社団法人 中越防災安全推進機構

2004年10月の新潟県中越地震を契機として、中越地域の産官学民により2006年6月に発足。活動の柱は震災復興、災害体験の共有化、地域活性化・産業の振興で、学問研究コンソーシアムによる地震等災害に関する調査研究活動の深化、中越市民防災安全大学や自治体研修による地域や行政における防災リーダーの育成と防災安全知識の啓発・普及、防災安全技術や産業の振興等の活動を行っている。

急がれる課題は地震等の災害記録の収集・保管、被災地保存、被災体験や知識の共有化のための中越大震災メモリアル拠点整備、中山間地における持続可能なコミュニティ形成のための地域復興支援員の養成、そして国内のみならず海外も視野に入れた被災地連携ネットワークの形成である。

機構は、大都市とは異なる地方都市の防災安全の総合的教育研究機関であるとともに地域活性化の拠点をめざしている。

#### 日本災害復興学会

2008年1月、「災害復興学」という新たな学問領域を開拓するために発足。会員は法律・行政、金融・財政、地方自治・都市計画、社会・歴史、保険、医療・看護、建築…といったすべての学問分野の研究者に加えて、NPO・NGO、メディア、コンサルタント、行政など、多様な主体によって構成される。

地震、津波、火山、台風・竜巻、雪害、地すべりという、ありとあらゆる自然災害を経験してきたわが国において、被災体験を共有し、教訓を紡ぎだして制度とし、社会のひずみ・枠組みを捉えなおす作業に取り組んでいる。

組織運営のための3つの委員会に加え、現在は復興デザイン研究会、復興法制度研究会、災害報道研究会の3つの研究会が活動している。

### ■共催

#### 新潟大学災害復興科学センター

新潟県中越地震を契機として、学内の積雪地域災害研究センターとコアステーション復興科学センターを統合・改組することで、2006年4月に発足した。

中山間地域を対象として、自然災害からの復興支援策ならびに防災・減災に関わる方策について、学術的かつ多角的視野からの研究を行っている。調査分析結果に基づいた具体的な提言により地域社会へ貢献するとともに、関係学問分野の融合により災害や復興に関わる新学問領域の構築をめざしている。

現在、生活安全、地域産業支援、防災、情報通信の4部門体制で、自然科学、人文科学、社会科学の幅広いメンバーで構成されており、各種災害調査などの研究成果を公表するとともに、一般市民に向けたセミナーや公開講座などを開催している。

### 資料3. 国際シンポジウム企画展

展示目的:国内外から来県される方に新潟の自然災害の記録、ふたつの震災被害を再認識していただきます。また、その教訓をもとにした防災の取り組みを紹介します。

#### \* 展示概要

- ・自然災害年表
- ・中越地震の概要
- ・阪神淡路大震災の概要
- ・中越沖地震の概要
- ・中越市民防災安全士会の取り組みの紹介
- ・(社)中越防災安全推進機構事業紹介
- ・長岡技術科学大学研究紹介
- ・(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター研究紹介
- ・新潟大学災害復興科学センター研究紹介

### 資料4. 国際シンポジウムミニシアター

中越地震によって全村離村を余儀なくされた長岡市山古志地区の災害と復興をテーマとした映像を上映します。

#### \* 上映スケジュール

開始時刻	開始時刻	開始時刻
10:00	1000年の山古志	120分
12:00	山古志の四季	21分
12:30	古民家の記憶	22分
13:00	掘るまいか	83分

※上記4本他を上映する

#### \* 席数100席



『掘るまいか』



『1000年の山古志』

## 資料5. 組織・実行委員会

### ■ 組織委員会

委員長：伊藤滋((社)中越防災安全推進機構理事長、東京大学名誉教授)

副委員長：泉田裕彦(新潟県知事)、森民夫(長岡市長)

委員：上山良子(長岡造形大学学長)、大林厚次((社)北陸建設弘済会理事長)、  
河田恵昭(関西大学環境都市工学部教授)、北川和徳(日本経済新聞社新潟支局長)、  
是澤優(アジア防災センター所長)、佐藤篤司((独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター長)、  
清田知之(新潟日報社長岡支社長)、仙石正和(新潟大学災害復興科学センター長)、  
高田孝次(長岡工業高等専門学校校長)、玉井信行(金沢学院大学大学院教授、東京大学名誉教授)、  
中林一樹(首都大学東京教授)、新原皓一(長岡技術科学大学学長)、  
羽賀友信(長岡市国際交流センター長)、萩原佳孝(毎日新聞新潟支局長)、  
原圭介(産経新聞社新潟支局長)、原陽一郎(長岡大学学長)、平井邦彦(長岡造形大学教授)、  
前川秀和(国土交通省北陸地方整備局長)、丸山久一(長岡技術科学大学教授)、  
丸山智(長岡商工会議所会頭)、三島勇(読売新聞新潟支局長)、  
三島和子(セコム(株)IS研究所主任研究員)、室崎益輝(日本災害復興学会会長、関西学院大学教授)

### ■ 実行委員会

委員長：丸山久一(長岡技術科学大学教授)

副委員長：佐藤篤司((独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター長)

委員：和泉薫(新潟大学災害復興科学センター教授・副センター長)、稲垣文彦(中越復興市民会議代表)、  
大塚悟(長岡技術科学大学教授)、上村靖司(長岡技術科学大学准教授)、  
木村拓郎((株)社会安全研究所所長)、澤田雅浩(長岡造形大学准教授)、  
塩野計司(長岡工業高等専門学校教授)、高橋治道(長岡大学教授)、  
樋口栄治(長岡商工会議所専務理事)、平井邦彦(長岡造形大学教授)、  
福留邦洋(新潟大学災害復興科学センター特任准教授)、細山田得三(長岡技術科学大学准教授)、  
丸井英明(新潟大学災害復興科学センター教授・防災部門長)、山川智子(長岡大学准教授)、  
山中茂樹(日本災害復興学会理事)

監事：桑原眞二(NPO 法人ながおか生活情報交流ねっと理事長)、  
高木仁(NPO 法人住民安全ネットワークジャパン理事長)

### ■ 問い合わせ先

〒940-0062 新潟県長岡市大手通2-2-6 5F

(社)中越防災安全推進機構

TEL/FAX:0258-36-8141 E-mail:info@c-bosai-anzen-kikou.jp URL:http://c-bosai-anzen-kikou.jp/sym09

新潟県中越大震災5周年事業  
防災・安全・復興に関する国際シンポジウム  
報告書

---

2010年(平成22年)3月

**発行** 社団法人 中越防災安全推進機構  
新潟県長岡市大手通2丁目2番地6 ながおか市民センター5F  
TEL & FAX (0258) 36-8141 〒940-0062

**編集協力** 日本災害復興学会  
新潟大学災害復興科学センター

**制作協力** 株式会社 プロジェ

---

この報告書のデジタル版(カラー)は(社)中越防災安全推進機構の  
ホームページ(<http://c-bosai-anzen-kikou.jp/>)よりダウンロードできます。

---

本書の無断複写複製(コピー)は、特定の場合を除き著作権と当機構の権利侵害となります。